令和７年12月16日

幕別町議会議長　寺林　俊幸　様

総務文教常任委員会委員長　荒　貴賀

総務文教常任委員会報告書

令和７年９月３日に承認されました委員派遣について、次のとおり会議規則第77条の規定により報告する。

記

１　道内先進地視察について

⑴　視察期日

令和７年10月14日～15日（２日間）

⑵　出席委員

荒　　貴賀、塚本　逸彦、小田　新紀、長谷　陽子、中橋　友子

（以上５名）

⑶　欠席委員

田口　廣之　　（以上１名）

⑷　視察地及び視察項目

①　南幌町「子ども室内遊戯施設はれっぱ」

㋐　日　時

令和７年10月14日（火）午後１時30分～午後２時15分

㋑　場　所

南幌町子ども室内遊戯施設はれっぱ

㋒　目　的

令和６年５月３日運用開始。地域の子ども達の居場所、保護者同士の繋がりの場、まちの賑わいの創出、まちの知名度向上など町民と共に「つくり」「育てる」魅力溢れるまちづくりの拠点施設を視察し、今後の調査・研究につなげることを目的とする。

㋓　内　容

「はれっぱ」は、子どもを中心に地域住民が交流できる複合施設として整備された。建物内には遊技場やカフェスペース、図書室が設けられ、乳幼児から小中学生、保護者、高齢者まで、幅広い世代が安心して利用できる環境が整っている。

また、施設は広大な中央公園内に位置し、隣接してスポーツセンターや小学校があり、教育・スポーツ・文化活動の拠点として相互に連携しやすい立地となっている。

㋔　所　感

遊技場やカフェ、図書室を兼ね備えた複合的な構成で、立地も広い中央公園内にあり、スポーツセンターや小学校と隣接している点が非常に魅力的であった。子どもたちの活動環境としてだけでなく、保護者や地域住民も自然に集い交流できる場として機能しており、環境面でも大変恵まれていると感じた。また、町外からの利用者が多いという点も、施設の魅力と運営方針の成果を示しており、地域の枠を超えた交流拠点として高く評価できる。

「はれっぱ」は、子どもと地域をつなぐ新しい公共空間として、環境づくり・立地条件・運営形態のいずれにおいても優れている。このような複合的な用途を兼ね備えたビジョンに基づく整備が今後、当町での地域交流拠点づくりの参考となる有意義な事例であった。

②　千歳市「史跡キウス周堤墓群ガイダンスセンター」

㋐　日　時

令和７年10月14日（火）午後２時45分～午後３時45分

㋑　場　所

史跡キウス周堤墓群ガイダンスセンター

㋒　目　的

本年４月25日運用開始。世界遺産【北海道・北東北の縄文遺跡群】の一つである。約3,200年前の縄文最大級の墓【キウス周堤墓群】の展示資料を視察し、キウス周堤墓群を守り生かす会による史跡のガイドを受け、史跡キウス周堤墓群の保存活用の取組について研修する。

㋓　内　容

本年４月に遺跡に併設して「ガイダンスセンター」が完成し、オープンした。ボランティアガイドから、キウス周堤墓の意味や位置、発掘の様子や出土品、お墓の様子を学び、その後に遺跡エリアに進んできめ細やかな説明を受けた。

㋔　所　感

史跡キウス周堤墓群を視察し、『遺跡の価値』は物そのものだけでなく、出会う語りと導きによって立ち上がることを実感した。ガイダンスセンターの充実と、ボランティアガイドの深い知識、軽やかな語り口が、散策を単なる歩行から発見の旅へと転換してくれた。

地形の意味や埋葬の背景、当時の人々の暮らしへの想像は、案内がなければ『来て終わり』で終わっていた可能性が高い。

現在、幕別町で建設を進める「アイヌ文化記念館」の今後の運営に

とっても大きな学びであった。入口でのガイダンスを充実させ、来館者の視点を『観客』から『探究者』へ切り替える工夫、学芸員や外部専門家に加えて地域の語り部や若者ボランティアを育成し、歴史・生活・自然・技術といった複数の語り口で同一展示に層を与える取り組みが有効だと考える。

さらに、リピーターを生む仕掛けとして、季節やテーマで内容が変わるミニツアー、実演・体験、館外のフィールドワークと連動した『外へ出る展示』などが考えられる。

来館者の中に『また来たい理由』を芽生えさせること、それこそが、当施設で体感したガイドの語りの力である。この学びを出発点に、アイヌ文化記念館でも生かせるよう、さらなる検討と実践を進めていきたい。

③　苫小牧市「苫小牧市東開文化交流サロン」

㋐　日　時

令和７年10月15日（水）午前９時10分～午前９時40分

㋑　場　所

苫小牧市東開文化交流サロン

㋒　対応者

苫小牧市東開文化交流サロン

コーディネーター　学芸員　壽﨑　琴音　氏

㋓　目　的

千歳空港の24時間運用に伴う地域政策の一環として2022年12月１日運用開始。図書館機能と福祉拠点機能を兼ね備えた市では初の共生型地域福祉拠点。利用者の安全や安心感を意識した設備、子どもたちが喜びそうなアイデア、図書スペースやギャラリースペースも工夫された施設を視察し、今後の公共施設の複合化の参考とする。

㋔　内　容

苫小牧市東開文化交流サロンの施設概要や運営方法、特徴について説明を受け、最後に施設見学を行った。

㋕　所　感

「場」の機能として図書室・絵本ホールは多様な人々が能動的かかわる図書室」目指し、一風変わったルール運営をされていました。併設の絵本ホールは布絵本、大型絵本など珍しい絵本も多く収蔵していました。コモンズルーム（貸室）は、大容量の多目的ホールでは休んだり、遊んだり学んだり、対話したり、自由な交流を楽しむ、広い廊

下はギャラリーにもなっており人が生み出す渾身の、多様な表現に彩られる新たな価値観との「出会い」の広場になっているとの説明でした。

「人」の機能としては年齢、経験さまざまなスタッフが来館者に元気に挨拶をしています。また福祉の専門資格を持っているスタッフいて気軽に相談できる環境の整備がされている。私たちの町には40年以上前に建てられた建物があります。時代背景は異なりますが、これから新たに建物を建てる際には参考になる点があるかもしれません。

④　苫小牧市「職員のウェルビーイングの実現を目指す取組」

㋐　日　時

令和７年10月15日（水）午前10時00分～午前11時45分

㋑　場　所

苫小牧市役所

㋒　対応者

苫小牧市議会副議長　松尾　省勝 氏

苫小牧市議会事務局　事務局長　宮沢　照代 氏

苫小牧市総務部行政監理室　服務主幹　出雲　奈緒　氏

㋓　目　的

苫小牧市の職員の心身の健康を重視する「ウェルビーイング経営」を推進し、働き方改革と健康経営を一体に進めいている。職員のエンゲージメントを高める実態調査の実施など2021年から４年連続「健康経営優良法人」の認定を受け、全国自治体で唯一の「ホワイト500」の認定を受けるなど、職員が能力を最大限に発揮できる職場環境の取組について研修する。

㋔　内　容

職員数は2,147人で、市役所内に「総務部行政管理室　服務・働き方改革担当」が設置されていた。

苫小牧市健康経営宣言（令和３年３月25日）を行い、５項目の重点目標として、①心と体の健康保持・増進、②健診・検診の促進、③労働時間の適正化、休暇取得の促進、④育児・介護・治療と仕事の両立、⑤業務改革・意識改革で働きやすい環境形成を定めて、達成に取り組んでいる。

具体的成果としては、①健康経営優良法人（経済産業省）に５年連続認定された。②有給取得日数が平均14．３日で平成28年時10．２日か

ら４．１日延びた。③再検査受診率100％達成。④通年でノーネクタイＯＫとなり、自分らしく働きやすい服装の選択可能（Ｔシャツ、綿パン、ネームプレートはひらがなで名字のみ)。⑤セルフケア休暇を導入し、不妊治療、禁煙治療、検診・検査の再検査、性別不合の治療を推進している。

苫小牧市ハラスメント・ゼロ宣言（令和５年４月１日）を行い職員のみならず、すべての関係者が良好な人間関係を構築してきている。

アンケート調査結果では、①心理的安全性が高いという項目で、仕事に主体的に取り組んでいるが81％、自由に発言できる心理的な安心感があるが81％であった。②職員同士のつながりが強いという項目では、お互いに理解し認め合っているが79％、共に働こうと言う姿勢があるが77％、部下を思いやる上司が多いが92％の結果であった。

多様な取り組みとして、職場内でマインドフルネス&ヨガピラティスや、栄養士による適切な食生活の指導、簡単ストレッチや２０分間の仮眠等を保障している。

㋕　所　感

視察を終えて、特に若者・女性職員がのびのびと仕事に従事し、女性の管理職も２割を超えていた。年度途中の退職者も３０人程度であり、働きやすい環境づくりの効果が徐々に表れてきていると受け止められた。

⑤　苫小牧市「苫小牧美術博物館」

㋐　日　時

令和７年10月15日（水）午後１時10分～午後２時45分

㋑　場　所

苫小牧美術博物館

㋒　対応者

苫小牧美術博物館長　藤原　　誠　氏

㋓　目　的

苫小牧市の地域性を反映した美術作品が体系的に展示されており、市民の教育普及活動の取組について研修する。特に、地域文化の振興と教育的機能を両立させる取組、学芸員の専門性を活かした事業展開、今後の施設運営の方向性について把握し、当市の施設運営方針の参考とする。

㋔　内　容

運営体制と学芸員の役割について、学芸員が展示・収蔵・教育普及・広報などを分担しながら館運営の中核を担っている。特に、展示や教

育活動を通じて「地域と美術館をつなぐ媒介者」としての役割を果たしており、文化施設運営における学芸員の重要性を改めて認識する機会となった。

展示・収蔵活動について、常設展示では、苫小牧ゆかりの作家や北海道近代美術の流れを紹介し、企画展では全国の美術館との共同開催や地域アーティストとの協働展示を行っている。また、収蔵品のアイヌ関連資料1600点などのデジタル化を進め、オンライン公開を視野にアーカイブ整備を進行中である。

地域との教育プログラムとその成果について、教育普及アウトリーチ活動として、小中学校との連携授業、親子ワークショップ、鑑賞教室などを実施。特に「美術館授業プログラム」により、児童が地域の文化資源を体験的に学ぶ機会を提供している。これにより、子どもたちの地域理解の深化と創造性の育成に成果が見られている。

施設運営上の課題と今後の展開について、施設の老朽化や収蔵庫の狭隘化が課題であるが、学芸員を中心に「地域の創造拠点」としての美術博物館を目指す新たな展開を構想している。デジタル展示の導入、地域アーティストとの共同制作、観光分野との連携強化など、柔軟で持続的な運営モデルを推進中である。

㋕　所　感

苫小牧美術博物館は、地域文化の継承と創造を両立させる好事例であり、特に学芸員の専門性を活かした教育・展示活動は、文化施設の社会的価値を高めている。地域連携による教育プログラムや、美術と博物館が一体で機能している事は幅広く市民の文化意識の醸成に寄与しており、施設が「地域の学びと表現の場」として機能している。今後の再整備においては、ハード整備のみならず、ソフト面（人材育成・地域協働・教育機能）を重視した運営方針の確立が重要である。

令和７年10月14日（火）　南幌町子ども室内遊戯施設「はれっぱ」

（施設外観）

（施設内観）

令和７年 10 月 14 日（火）史跡キウス周堤墓群ガイダンスセンター（千歳市）

（施設外観）

（展示室）

（史跡ガイド①）

（史跡ガイド②）

令和７年 10 月 15 日（水）　苫小牧市東開文化交流サロン

（概要説明①）

（概要説明②）

令和７年10月15日（水）　苫小牧市役所

（松尾副議長挨拶）

（概要説明①）

（概要説明②）

（記念撮影）

令和７年 10 月 15 日（水）　苫小牧市美術博物館

（概要説明①）

（概要説明②）

（展示室①）

（展示室②）